



古林 重幸
Kobayashi Shigeyuki

2020年2月
ぶり市の様子



古林重幸さん(下皆部)

北房地域で生まれ育ち、幼少の頃より、身近な催しとしてぶり市に親しんできた。皆部商店会の会員として50年前からぶり市の運営に携わっている。現在は皆部商店会長。

真

MANIWA BITO

庭人

ぶり市300年を超える伝統を次へ

ぶり市の歴史は古く、1700年頃に中津井で開かれていた市がその由来とされています。市内外、ときには海外のからの来場者もあり、会場となる皆部の商店街は多くの人で賑わいます。しかし、昨年と今年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止。北房文化センターでのぶり市展が行われました。

ぶり市を主催する皆部商店会の会長、古林重幸さんは「商店会の会員も減る中、地域の協力も得ながら、300年以上の歴史を引き継いでいます。ぶり小屋を新しくしたり、ぶり提灯を増やしたりという準備はしていったんです。みんな張り切っていた

し、9月や10月には何回も会合をして、中止の判断もぎりぎりまで引つ張ったんですけれど、残念です。ぶりは出世魚、縁起の良い魚だし、ぶり市の風に当たれば風邪をひかないとも言われているんですけれどね」と、今の気持ちを話してくれました。

子どもたちに誇りを持ってほしい

古林さんは、子どもの頃からぶり市に親しんできました。「おだちゃんを握りしめて、ぶり小屋に行っていました。値札なんかは出てないから、おっちゃんまけてくつて交渉するんです。おもちゃ、クワや力マなどの農具も売られていたし、唐津の瀬戸物の叩き売りが面白かったのを覚えています。電気屋の店先にテレビが出ていて、それにみんな群がったこともありま

したね」と、次々と時代を反映したぶり市の様子が、古林さんの口から溢れてきます。今後のぶり市への思いを尋ねると、「コロナで2回も休んだので、来年こそは、いいぶり市ができると信じています。ぶり市が長く続いているということや、北房に古墳が多いということは、昔から、ここが

住みやすい地域ということ。子どもたちに誇りを持ってほしい」とにつこり。

古林さんたちのような大人の姿こそ、我々の誇りかもしれません。

